

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

ネット銀行の使用価値 (使える部分と使えぬ部分)

ネット銀行 そう呼ばれるインターネット専門の銀行が日本で誕生して4年近く経った。発表された口座数や預金残高からするとネット銀行の認知度もかなり進んできたと言っている。当初は苦戦が伝えられ、いつまで赤字が続くのかと懸念されたが、前期当りから漸く事業の黒字化も見えるようになってきたようだ。既にネット銀行を利用して実感している方もいると思うが、ネット銀行はどの辺に使用価値があるのか、改めて探してみたい。

私自身のことを言えば、ネットを使って2つの銀行と取引をしている。

1つは、日本最初のネット専門銀行であるジャパンネット銀行である。これは関係しているNPO法人の取引で、会計担当の私が管理しているものである。専ら会費の振込入金と経費振込支払に使っているだけの小口取引に過ぎないが、取引を始めて3年が過ぎた。取引歴だけで言えば、古い方の部類に入るかもしれない。

もう1つは、今年再上場して話題となった新生銀行である。ネット専門ではないが、ネットによるリテール取引拡大に力を入れている銀行である。私自身は、銀行に行かなくて済み、しかも振込手数料が全て無料であることに魅力を感じて今年口座を開いた。時々、振込み手続きに利用している。

私のような、銀行に行かなくて済み、時間に制約されない、手数料が安い、という点にメリットを感じて取引している方も多い筈だが、銀行の方はそれだけで利益を出すのは難しい。何が事業の中核になっているのだろうか。

まず、公開資料からネット専門3行の現況を調べて下表にまとめてみた。

	ジャパンネット	イーバンク	ソニー銀行
口座数	848千	NA	268千
預金残高	1,534億	1,580億	3,785億
貸出残高	162億	-億	630億
経常損益	17億	29億	22億
従業員数	63名	70名	80名

リアル世界に店舗を1店舗も持たない銀行が

少数社員で1千億円以上の預金を集めている訳であるが、いずれの銀行も未だ赤字状態にある。貸出残高にもバラツキがあり経営方針に違いがあることが見てとれる。しかし、ジャパンネット銀行とイーバンクは単月での黒字化をはたし今期の黒字転化は確実といい、ソニー銀行も来期には黒字転化すると伝えられている。

ネット専門3行は何を以て利益を稼ぎ出しているのだろうか。

開示資料からは概ね次のような事業がその中心となっている。

ジャパンネット	<ul style="list-style-type: none"> ・ATM網構築 ・買物のネット決済 ・個人向けローン
イーバンク	<ul style="list-style-type: none"> ・法人向け決済・送金業務 ・貸出はせず債券等で運用
ソニー銀行	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の資産運用(外貨預金や投信託、年金保険) ・住宅ローン

それぞれ方向性は少し違っているが、共通しているのは当り前だがネットの利点を最大限生かすことに力点を置いていることだ。ネット銀行の強みは、低コスト、24時間365日稼働、早い、の3点にある。その強みを生かして、預金利息を高くし、ローン金利を下げ、そして手数料を安くする。それに魅力を感じてお客が集り、落とす金利と手数料が増えていく。

私の勝手なイメージでは、会社で決済に使うならイーバンク(但し、融資はやっていない)、個人の資金運用に関心のある方であればソニー銀行、ネットショッピングなどで使うならジャパンネット銀行、というようになるが、今の所ネット銀行を中小企業が使うメリットは、前述した、銀行に行かなくて済み、時間に制約されない、手数料が安い、以外に見当たらない。それ以上を求めても無駄だと思うが、それでもネット銀行自体はこれからも拡大成長して行くに違いない。ネット証券はその先事例であるが、銀行界でもいずれあなどれない存在になってくるのではないだろうか。

減少したとはいえ、大手銀行から地域金融機関まで未だまだ沢山の金融機関がある。それぞれに頑張っていて欲しいが、はたして備えはできているだろうか。

(来週は休ませていただきます)

Weekly Fax Report

《複製・転載等のご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2004.8.7(第423号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp